

うちなだ 議会だより



秋風とサバイバル

Vol. 123

平成27年〔2015〕
11月5日 発行



石川県内灘町議会

「まさかっ！」に備えまじょう

おじいちゃん

お父さん

お兄さん

ぼくも

一人ひとり

防災意識を高めて

おばあちゃん

お母さん

お姉さん

わたしも

地域力の強化を図る

内灘町議会

— 目次 —

4 活力ある交流拠点づくり 9月会議

6 災害対策に万全を！ 決算特別委員会

8 討論！ — 平和安全法制

8 議会改革を進める！
政務活動費廃止

9 一般質問
議員8人が登壇

18 委員会レポート

19 ありやくどうなつたがいねく

20 街かどインタビュー — 向粟崎地区 上端花子さん

表紙のことば

「秋風とサバイバル」

9月21日（月・祝）ツール・ド
のと400が内灘からスタート。
3日間で419キロを走破した。

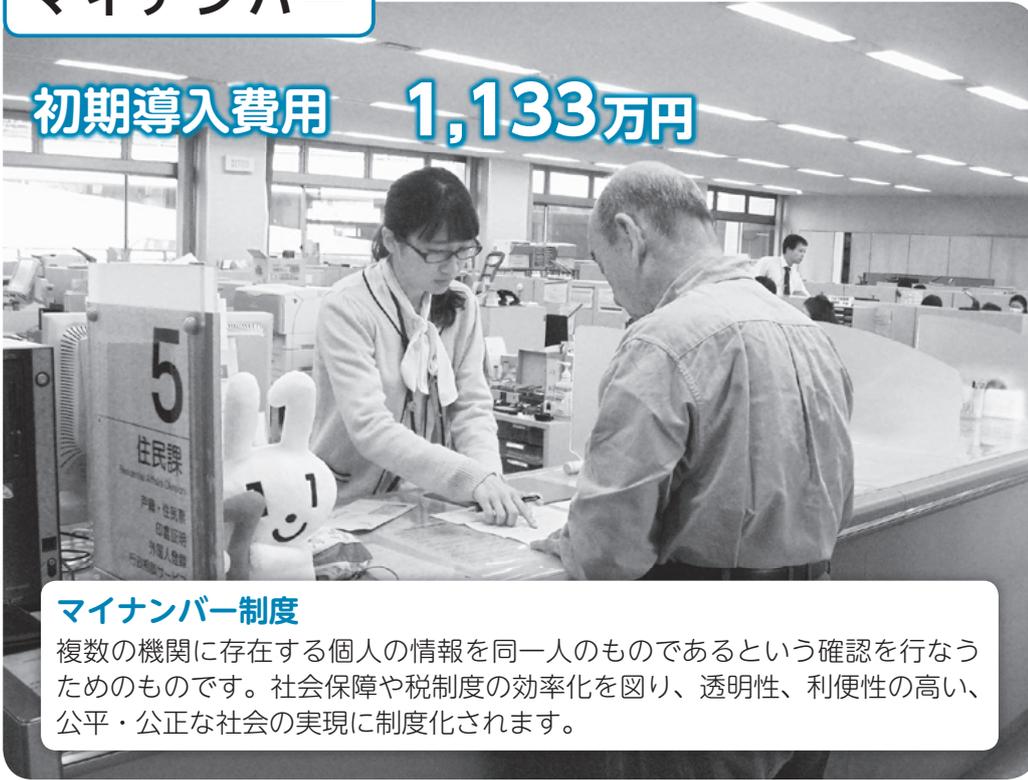
拠点づくり

さらなる魅力アップへ！

第2回 定例会
9月会議
1日～17日

マイナンバー

初期導入費用 1,133万円



マイナンバー制度

複数の機関に存在する個人の情報を同一人のものであるという確認を行なうためのものです。社会保障や税制度の効率化を図り、透明性、利便性の高い、公平・公正な社会の実現に制度化されます。

平成27年第2回議会定例会9月会議が開催され、平成27年度補正予算3件のほか、条例7件、契約締結2件、人事案件1件の計13件を審議し、すべて原案のとおり可決しました。平成27年度一般会計では、2億488万円を追加し、総額は95億1907万円となりました。

補正予算

一般会計

公的病院等運営費補助金などを追加し、総額95億1907万円となりました。

(賛成10人・反対2人)

介護保険特別会計

在宅医療・介護連携推進事業費補助金200万円を追加し、総額17億7440万円となりました。(全員賛成)

国民健康保険特別会計

拠出金の変更及び制度改正に伴い、3億5900万円を追加し、総額35億1040万円となりました。(全員賛成)

条例の制定

内灘町子ども・子育て会議設置条例

子ども・子育て支援法の制定に基づき「子ども・子育て会議」を設置する。

(全員賛成)

条例の改正

内灘町半島振興対策実施地域における固定資産税の特

例に関する条例の一部を改正する条例

半島振興法の一部改正により取得期間の延長と業種を追加する改正。(全員賛成)

乳児及び児童の医療費助成に関する条例の一部を改正する条例

無料又は定額で受診できる現物給付方式を導入するための改正。(全員賛成)

内灘町ひとり親家庭等医療費給付に関する条例の一部を改正する条例

無料又は定額で受診できる現物給付方式を導入するための改正。(全員賛成)

非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例

被用者年金制度の一元化等を図る改正。(全員賛成)

内灘町個人情報保護条例の一部を改正する条例

番号法の施行に伴い、厳格な保護措置を講ずるための改正。(賛成10人・反対2人)

内灘町手数料徴収条例の一部を改正する条例

番号法施行による通知カードと個人番号カードを再交付する際の手数料を定める改正。(賛成11人・反対1人)

活力ある交流

総合公園



屋内多目的広場建設工事
4億4,913万円

- ・ 建築 3億9,636万円
- ・ 電気設備 5,277万円

公民館



施設改修工事 1,240万円

- ・ 大学公民館 1,030万円
- ・ 向陽台公民館 210万円

契約の締結

・ 内灘町総合公園屋内多目的
広場建設工事（建築）

契約金額 3億9,636万円

契約先 株式会社豊蔵組

・ 内灘町総合公園屋内多目的
広場建設工事（電気設備）

契約金額 5,277万円

契約先 成瀬電気工事株

式会社

（全員賛成）

人事案件

監査委員



豊原 菊生氏
（新任 白帆台）

（全員賛成）

7月会議 7月30日

補正予算

一般会計

繰出金及びスポーツによる
地域活性化推進事業により
2,279万円を追加し、総
額93億1,419万円としま
した。

（全員賛成）

新エネルギー事業特別会計

風力発電設備の更新工事等
で4,400万円を追加し、
総額9,200万円としまし
た。

（全員賛成）

農業委員



恩道 正博氏
（新任 大根布）

（全員賛成）

人事案件

万全を!

財政力指数
全国739位 / 1742
県内9位 / 19

(平成25年度の自治体ランキング)

町の貯金

基金名	25年度末	26年度末
財政調整基金	7億 772万円	5億2,426万円
公用・公共用 施設整備基金	2億9,669万円	2億2,100万円
義務教育施設 整備基金	2億9,083万円	3億1,108万円
(仮称)高齢者いきいき健 康センター整備基金	1億8,132万円	1億9,636万円
土地開発基金	1億 228万円	1億 241万円
海と砂丘文学顕彰 事業基金	1億 66万円	1億 66万円
その他の基金	1億1,439万円	8,638万円
合計	17億9,389万円	15億4,215万円

一般会計の借金

地方債	25年度末	26年度末
総務関連事業債	6億4,961万円	9億5,541万円
民生関連事業債	3億 608万円	2億5,949万円
衛生関連事業債	8,267万円	7,559万円
土木関連事業債	19億3,058万円	20億4,585万円
消防関連事業債	2億2,976万円	7億7,942万円
教育関連事業債	17億1,702万円	15億6,758万円
臨時財政対策債	37億9,272万円	40億3,555万円
その他の町債	9,933万円	2億4,181万円
①一般会計町債の計	88億 777万円	99億6,070万円

特別会計の借金

公共下水道事業 特別会計	93億8,377万円	92億7,749万円
新エネルギー事業 特別会計	3,730万円	1,876万円
国民健康保険 特別会計	3,840万円	2,560万円
②特別会計町債の計	94億5,947万円	93億2,185万円
③水道事業会計	9億1,794万円	9億3,812万円
町の借金の合計 (①+②+③)	191億8,518万円	202億2,067万円

どうなった?

平成26年度の指摘・要望事項

- 文化・芸術への奨励金を検討せよ。
→近隣市町の状況を調査し、計画の策定に向け取り組んでいる。
- ジュニア美術展と一般の美術展を同じ時期にできないか、文化協会と相談し検討せよ。
→平成27年度より町総合美術展と改称し合同開催となる。
- 内灘大橋のライトアップを検討せよ。(カラー照明)
→夜間の景観再生に向け検討をし、議会に報告済。今後は財源確保を含めさらに検討する。
- 海拔標示板の表示工夫を検討せよ。
→低地の坂道地点にある海拔標示板に避難方向の表示案内を加えた。
- 町の情報はホームページやフェイスブックなどを活用してさらなる発信を推進せよ。
→随時更新し、充実を図っている。

決算特別委員会



夷藤 満 米田 一香 七田 満男 川口 正己
中川 達 恩道 正博



町民一人あたりの貯金
5万7,306円
 平成25年度 6万6,298円

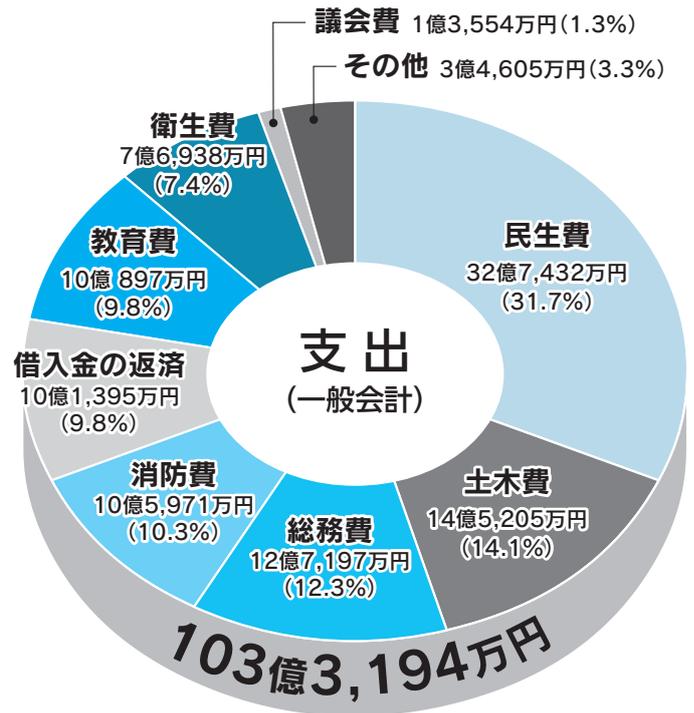
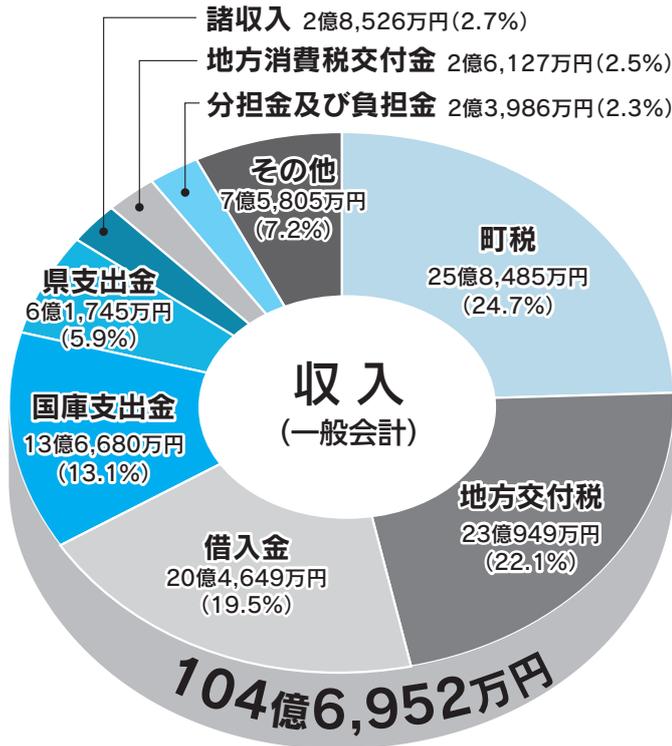


町民一人あたりの借金
37万 135円
 (一般会計)
 平成25年度 32万5,514円

26年度 決算

指摘・要望 災害対策に

平成27年度決算特別委員会を設置し、平成26度の事業成果を審査しました。各会計の決算7件と水道会計の剰余金を審査し、16件の指摘・要望をつけて、いずれも認定しました。



町民1人あたりの費用
38万3,930円
(一般会計)
 平成25年度 32万1,948円

平成27年3月末
人口26,911人
(前年度より147人減)

- 平成27年度 おもな指摘・要望事項**
- 農林水産業再生のための対策推進。
 - 内灘海水浴場の浜茶屋に健全運営を指導すべき。
 - 町内にある公園管理をしていくためのアダプト制度※の支援拡大。
 - ※アダプト制度とは公園などの公共施設を地域住民や企業が自発的に美化活動や維持管理する制度
 - 町民の安全・安心のための災害対策に万全を期すべき。
 - 町で行なっている健康推進事業の周知徹底。
 - 自己水の確保を検討すべき。
(前年度から指摘あり・継続)
 - コミュニティバスの拡充推進。

決算ってなあに？

4月から翌年3月までの1年間に入ったお金と使ったお金を精算することだよ。町民の代表としての議会は、使ったお金の効果を評価し、認定します。次年度以降の予算に反映させるために重要なんだよ。

請願の審査 討論!



**「平和安全法制」2法案に
反対する意見書の提出を
求める請願**

不採択

(賛成2人 反対10人)

◎請願者

内灘憲法9条の会

代表 加藤 喜一

新日本婦人の会

内灘支部長 宮本喜久子

◎紹介議員

北川 悦子

反対

磯貝 幸博議員

近隣諸国の動向には危機感を煽る事案が多数ある。隙間のない防衛で平和を守るため長時間の議論がされた。町も平和安全法制を支持すべき。

反対

恩道 正博議員

集団的自衛権の行使容認は、安全保障面でのアメリカ依存の解消につながり、将来的には自前の軍備を中心に、近隣諸国との同盟関係を機能させる。

賛成

北川 悦子議員

世論調査では、国民の多数が憲法違反、今国会の成立に反対と言っている。連日、国会前や全国各地から強行すれば大変だとの声があがっている。

賛成

清水 文雄議員

国民の8割が今国会では決めるべきではない。6割以上がこの法律は戦争に導き、憲法9条を否定する法律であると言っている。

議会改革を進める!

賛成多数で可決

議会議案第9号

政務活動費の交付に関する条例を廃止する条例の提出について

賛成

太田 臣宣議員

議員活動をするために、政務活動費がなくても、議員の報酬の中から自分の活動をしっかりとつけてこそ議員のつとめではないか。

提出議員 夷藤 満
賛成議員 川口 正己
賛成議員 太田 臣宣
(賛成9人 反対3人)

政務活動費とは

地方議員の調査研究活動などのため、議員報酬とは別に交付されるもの。内灘町議会では、毎月町議1人あたり2万円が各党派(所属議員一人の場合を含む)に支給される。使わなかった分は町に返すこととなっている。

反対

清水 文雄議員

政務活動費を活用して行なう調査研究がますます重要になる中、使途の透明性を高め、議員の資質向上につながる政務活動が大切であり、廃止には反対する。

反対

北川 悦子議員

廃止することは、議員活動に保障されている政務活動を狭め、議会改革の後退になる。町民の立場に立った改革を願って反対する。

一般質問 (9月3日)

町政も問う 8人が登壇

太田 臣宣 議員 10

- 大根布地区の危険崖地の取り組みは
 - 空き家対策について
- ほか1問

米田 一香 議員 11

- 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援
 - つながるつなげるホリスティック・シティ
- ほか1問

北川 悦子 議員 12

- 町長に安全関連法案に関して聞く
 - 合葬式墓所の申込み等詳細について
- ほか2問

川口 正己 議員 13

- 北部開発について
- 総合公園について

藤井 良信 議員 14

- 「平和安全法制」町の考えを示せ
 - 「若者支援」新たな計画はあるか
- ほか3問

清水 文雄 議員 15

- 石川北部RDF広域処理組合負担金について
 - (仮称)白帆台小学校建設について
- ほか1問

磯貝 幸博 議員 16

- 安心安全のマイナンバー制度を
 - 空き家調査からニーズに沿った具体策を示せ
- ほか3問

恩道 正博 議員 17

- 北陸各市町村の地域活性度ランキングによる町の取り組みについて
- 地方創生事業の取り組みの状況について

質問と答弁の詳細は町ホームページ→議会→議会録画中継でご覧ください。

題字 上野雅子さん(西荒屋)



大根布の危険崖地解消は

地元との協力が必要

町長



太田 臣宣

問 平成27年3月には北部地区基本構想が策定され、西荒屋地区と室地区の危険崖地の解消も示され、計画の第一歩を踏み出した。
大根布の崖地も北部と同じく、平成23年に石川県によって土砂災害警戒区域の指定を受けている。地権者への説明会では、どのような意見があったのか。



警戒区域への対応を急げ

答 地元住民からは、「大雨が降ると心配である」「土砂災害の対策工事による個人負担額が大きいのではないか」などの意見があった。
問 個人負担分の助成を検討できないか。
答 事業規模を確認した上で、他の市町の動向も調査し検討する。

問 町として今後の方向性は。

答 地権者全員が事業化を希望し同意が得られれば、国・県の補助事業を受けられるよう要望したい。

問 地元との協議も必要ではないか。

答 地元区長や区役員の皆様の協力が必要と考えている。

問 この地域は上下に住宅が張りついており、県や国にもその現状を把握するように町として働きかけよ。

答 今後、県担当部に現況調査をするよう強く要望する。

空き家対策

問 空き家対策特別措置法の主な内容は。

答 町は、適切な管理の助言や指導、特に危険な状態の空き家への勒令、命令、代執行となる措置ができる。

問 地元商工会や不動産業者との連携を図り、宅建協会のように相談窓口を増設せよ。

答 今後町商工会と協議し、どのような相談体制がとれるか前向きに検討する。

問 空き家のリフォーム助成を検討できないか。

答 定住促進策は必要であり次年度、他市町的事例を参考に検討する。

街なみ整備

問 1・8メートル未満の道路に接続する宅地には建築する方法がない。今後どのように対策を図るか。

答 用地の無償提供が不可欠で、沿線全員の協力がなければ事業化にならない。

地元地区の協力を得ながら安全な住環境整備に努めていく。

問 町の活性化を図る上で、合意が得られた地区から順次解消を図れ。

答 沿線住民の合意を得られた地区があれば、狭隘道路の解消に向け努めていきたい。

問 市街化調整区域の街なみ整備を進めよ。

答 相談があれば地元と協議を進める。



米田 一香

切れ目ない支援が必要だ

積極的に取り組む 町長

問 結婚・妊娠・出産・子育て期に至る切れ目ない支援が必要だ。

答 少子化対策として大変有効であり、事業の充実と、新たな支援施策に積極的に取り組む。

問 新婚世帯家賃助成制度の周知方法を改善し、来年度も継続せよ。

答 結婚式場等にチラシを配布して周知を図り、若い世代への支援によって転出抑制及び定住促進につながるよう事業を継続する。

問 現制度では妊婦健診15回目から実費負担が生じている。町独自の施策で負担軽減を図れ。

答 国の基準は14回だが、母子ともに健康で暮らせるよう、妊婦健診の助成回数を増やす。

健康増進

問 町民の健康を守るためにかかる費用の増加が心配だ。今後の推移をどのようにとらえているか。

答 公的負担は一層増えていくと予測しており、健康寿命の延伸に努めることが大切だ。

問 町民体育祭など多くの人が集まる時に、啓発や体力測定等を実施せよ。

答 来年度以降更なる健康増進に向け検討する。

問 地域特性を活かした健康な町づくりが必要だ。大学病院や公民館など町独自の恵まれた環境を活かし、先進的に保健分野専門職の充足を図り、他分野と連携を深め、健康づくりを中核に町全体がバランスよくつながる「ホリスティック・シティ内灘」を目指せ。

答 役場全体で幅広い視点から健康増進施策推進の体制づくりを検討する。町内医療機関や各町内会・各種団体に協力を依頼し、町全体で健康づくりを目指す。



内灘のたから（向粟崎保育所）

町民の声

問 町が調査・検討すると答えたことは、期間を設け状況報告せよ。

答 委員会等で報告をしており、今後も速やかな報告に努める。

問 聴覚障がい者のため、役場庁舎に手話通訳士を常勤設置せよ。

答 月2回、手話通訳者を配置している。常勤設置は難しく、職員も参加する手話講座を継続開催する。



老いも若きも健康づくり

問 町民からの声への対応と報告・共有の体制は。また、その声は個人情報でもある。情報セキュリティを幅広く取り扱う統一的な窓口（CSIRT）設置を検討し、十分な情報管理体制とセキュリティ対策を実施せよ。

答 受けた声を統括する部署はないが、内容に応じ町長や各部署間で情報共有している。

町の情報セキュリティポリシーに基づき、全職員に研修を毎年実施し、情報管理の徹底に努めている。今後は国の指導に従い検討する。

自衛官募集事務、町の関わりは 法定受託事務として 町長



北川 悦子



若者に希望ある未来を

問 自衛官募集案内が今年度も18歳になる方たちへ送付され、差出人は町役場総務課となっている。国から依頼を受け、基本台帳をもとに事務処理、送付を代行したのか。

答 自衛官及び自衛官候補生の募集については、自衛隊施行令並びに地方自治法・地方自治法施行令に、国にかわり県及び市町村がすべき法定受託事務と明記されており、町も自衛官募集事務の協力をしている。

問 自衛隊法施行令では、自衛官募集のために必要な資料提供を防衛大臣は各自治体に要請できる条項（120条）があるが、全国的には名簿を提供している自治体は3割だ。国が要請できるというだけで町は応じる義務はない。

答 法律や政令に義務づけられているもので、県内全ての自治体が委託費を受け協力しており、今後どういった募集事務ができるか検討する。

安全保障関連法案

問 国民の半数以上が戦争法案に反対し、80%以上が丁寧な説明すべきだと答えている。町長の見解を求める。

答 国会において審議中であり、国の安全保障上や外交上、極めて重要な問題であることから、国会においてしっかりと議論をしていただきたいと考えている。



竹とんぼ

合葬式墓所

問 夫婦、家族で希望の場合、どのような配慮を検討しているのか。また、分割払いはいできないか。

答 1月号の広報で募集案内を計画している。また、分割払いは皆さんの意見を踏まえ納めやすい、求めやすい形をと考えている。

子ども医療費助成

問 1月実施に向けての計画は。

答 町内の医療機関への依頼と確認、受給者資格者証の発行業務等を進め、11月、12月号の広報、ホームページ等で周知をしていく。

住宅リフォーム助成制度

問 住宅リフォーム助成事業は工事対象額を抑え、継続が必要だ。

答 財源等の課題もあり、次年度継続は難しい。

問 完全無料化と県内どこで受診しても適用できるように県に働きかけよ。

答 国が子どもの医療費無料化に向けて検討するとの記事があり、国の動向を見ながら検討する。



川口 正己

北部開発の進ちよく状況は

事業計画に沿って 町長

問 6月会議で内灘北部地区基本構想と都市計画マスタープランの素案が示された。北部開発はいつ、どこから進めるか。

答 定住促進を図るため、(仮称)白帆台インターチェンジ建設事業、(仮称)白帆台小学校建設事業及び白帆台H街区における公営住宅建設事業の設計作業を現在進めている。

また、ほのぼの湯の建設事業や交流人口創出のため、総合公園の整備拡充などを進めている。

問 宮坂から西荒屋方面に延びる宮坂17号線、また宮坂北線の基本設計における開発に取りかかるべきではないか。

答 中期(4〜6年)以降の計画をしているが、道路網計画として両事業の整備は非常に大切なものと考えている。

問 川口町長のときしかこの2つの事業を進めるのは難しいのではないか。

答 財源の確保などを含め、早期に着手ができないか検討していく。

問 北部地区基本構想は、スパンごとで地権者の同意を得ることが必要だ。

答 全体計画が策定された時点で地区ごとに同意を得、事業を進める。

問 専門農家が代替地を求めた場合はどうするか。

答 地権者の負担金や休耕地の補償も含め専門農家への代替地のあり方について検討していく。

問 白帆台の商業地誘致の進ちよくを示せ。

答 将来の状況を見据え、今後粘り強く誘致活動を続ける。

農業プラント

問 屋内で水、光、養分などの環境をコンピューターで制御し、葉野菜ならば4、5日で出荷できる農業プラントが全国で次々できています。県内ではこの水耕養液栽培をしているところはあるか。

答 平成27年3月末で4施設ある。また、志賀町では本年11月に操業開始予定。

問 農業栽培には、国の補助制度はあるのか。



暑さ対策ミストシャワー

総合公園

問 以前に、ミストを発生させる装置の説明を聞いたがどうなったか。

答 平成25年に海賊船遊具の横に簡易のミストシャワーを設置した。

問 サイクリングターミナル前の駐車場出入り口が不便だ。

答 閉め切った広場としているが、今後は安全・安心に使える空間の検討をしたい。

平和安全法制の見解を問う

恒久平和を目指すもの 町長



藤井 良信

問 戦後70年を経た今悲惨な戦争の歴史を風化させるのではなく、世界の恒久平和を目指すための安保法制である。

答 ここはしっかりと議論し、国民が理解できるような平和安全法制の整備を望みたい。

問 平和安全法制の目的は、戦争を未然に防止し、戦争を起こさせない仕組みをつくることにあると思うが、町の見解はどのようなものか。

問 同様に県での若者支援の取り組みはどのようなものがあるか。

答 町内の空き家や空き店舗を利用して新たに事業を開始する方々に補助金を交付している。

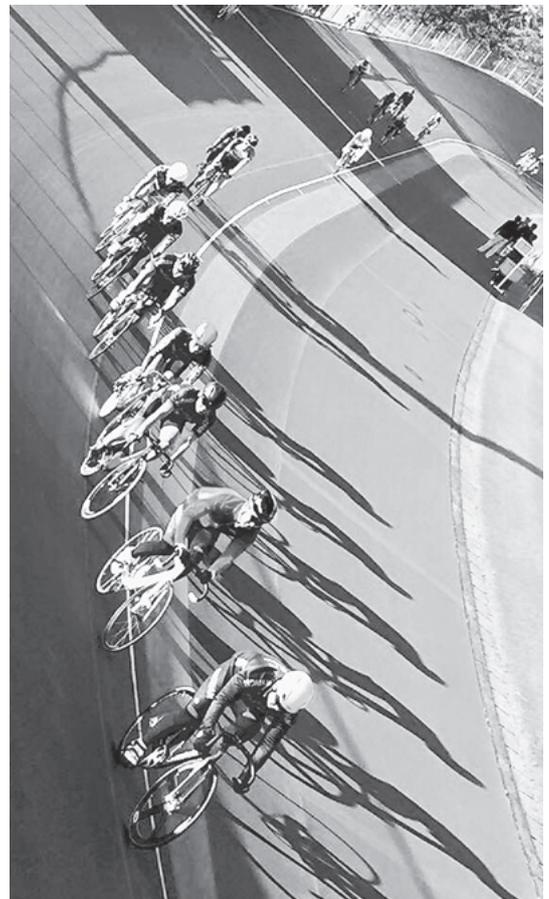
問 若者が将来の夢を実現するためのチャレンジに対して応援する施策推進の考えを示せ。

文化・教育

答 町総合美術展、和太鼓協会のどんどこ祭、砂丘フェスティバルの計3件で申請している。

問 いしかわ県民文化振興基金による文化活動への公募型助成事業に、町は応募申請をしたか。

答 小中学生を対象に、夢を実現する「子どもドリムフェスティバル事業」を実施しており、町でも毎年この事業のPRを行なっている。



走れ！目標に向かって

答 今後は町広報やホームページ等で案内し利用促進に努める。

問 年間を通して町民や一般の方々の施設利用者が少ないように感じる。

答 平成26年度、競技場の利用者延べ人数は7085人となっている。

自転車のまち

答 分かりやすくして便利な案内マップ作成を目指していきたい。

問 自転車のまちとしてのイメージアップが図れるよう、夢のある自転車周遊マップ作成の考えはあるか。

答 現在、内灘海岸にぎわいの創出を目的に駐車場の整備や、のと里山海道千鳥台交差点から海岸沿いに道路が整備できないか検討している。その中で新たに既存のサイクリングロードとの接続も考えていきたい。

問 教育委員会や学校現場では主権者教育についてどのような考えか。

答 社会科や道徳の教科の中で知識、理解を深め、体験型・参加型学習を取り入れながら推進していきたい。

問 のと里山海道に沿って千鳥台の起点から新たなサイクリングコースが敷かれ、現在ある海側サイクリングロードとつながるよう計画が検討されないか。



清水 文雄

負担金増があってはならない!

申し上げる状況にない 町長



新たな焼却施設の改善案は

問 2022年をもって石川北部アール・ディ・エフ(RDF)※センターは運転を止め、河北郡市広域事務組合は、新たな焼却施設を建設する方針だ。現行よりも町負担金が増額となるようなことがあってはならない。河北郡市広域事務組合に対して、今後どのような態度で臨んでいくのか。

答 現段階では、新フリーンセンターの整備計画に着手したところであり、規模や位置、建設工事費も固まっておらず、建設負担金や運営費、維持管理費を申し上げる状況ではない。今後、河北郡市広域事務組合で十分に議論がされる。

問 (仮称)白帆台小学校に移動が困難な児童や地域コミュニティの拠点また災害対策面からもエレベーターを設置せよ。

答 バリアフリー新法(通称)及び県のバリアフリー条例では義務化が求められており、設置することになっている。

小学校建設

問 RDF事業は県が推進した計画だけに、県の責任が大きい。焼却施設の補助金があつて当然だ。

答 県からの補助金は、しっかりと要望していく。

※RDF

廃棄物から作る固形燃料。焼却することで発生する熱エネルギーを活用して発電するんじや。



問 マイナンバー制度が来年1月から開始する。導入に伴う予算は、総額で6051万1000円。町負担が1941万6000円で、補助金が4109万5000円だ。法定受託事務であり、導入に伴う費用は国が負担すべきであり、市長もそつした見解を出している。

マイナンバー制度

答 システム及びネットワーク構築、改修などにかかる経費は多額となっている。国の補助額の不足は、全国共通の課題となっている。

こうした状況は、国や県に機会があることに伝えており、また県の町長会、全国町長会においても要望している。



リサイクル工作コンクール最優秀賞「べつとぞう」
植松 美心さん (大根布小学校)

安心のマイナンバー制度へ

体制の充実を図っている 町長



磯貝 幸博

問 10月に通知が始まるマイナンバー制度に対する住民の不安は、個人情報がかきちらんと管理、保護されているかという安全面に関するものだ。内部研修で職員の**コンプライアンス**※意識の徹底を行なったか。また、町民が安心して信頼の置ける情報管理体制を構築したのか。

答 本制度に特化したセキュリティ研修を開催し、情報管理体制の充実を図っている。マイナンバー情報は住民課の職員のみ閲覧ができ他はできない。業務上閲覧が必要な場合、住民情報等を管理している担当課長、住民課長、総務課長の承認が必要で、幾重にもチェックを行なう。

通知カード・交付申請書の様式

おもて面 うら面

申請すると…
個人番号カードが受け取れます。

どちらも大切に保管を

魅力ある公園整備

問 町全体を一つの健康テーマパークと位置づけ、高齢者の健康増進にも寄与する、笑顔を集めたいなる公園づくりを進めよ。

答 子供用と大人用の遊具が混在する中で、安全確保など調査と検討が必要だ。

子育て支援

問 転入・転出者の動向調査を窓口で行ない、生の声を集約し、今後の目安の一つとして活かせ。

答 窓口で転入・転出者にアンケートを実施し、動向調査をする方向で検討する。

※コンプライアンス
法令や規則をよく守ること。



空き家対策

問 空き家所有者へアンケート調査を行ない、結果を公表して意見を求め、危険家屋の解体ができない方に対して解体費補助制度新設の考えはないか。

答 庁内ワーキンググループで協議し、有効な空き家対策の施策の推進に取り組んでいく。解体費の助成は、今後検討していきたい。

スポーツ施設の管理

問 子供たちの夢を実現し、保護者の期待に寄り添えるよう設備の更新、メンテナンスに力を注げ。

答 利用者の声を聞き、必要に応じて更新を行なっている。誰もが使いやすい施設づくりに努めていく。



笑顔が一番 (蓮湖渚公園)



恩道 正博

今後の定住促進策は

実効性ある施策を検討

町長



まちづくりわっしょい！（小濱神社 秋の祭礼）

問 平成26年度、北陸農政局管内の80市町村の元気度を数値化した地域活性化度ランキングで内灘町が17位にランクされた。定住活性度においても全体の5番目に入っていることは、現町政の定住促進の取り組みが着実に進んでいるからだ。今後の定住促進に向けた施策を問う。

答 ランキングでは町づくりの方向性の正しさを再認識した。安定した人口構造を維持し、将来の活力ある町を目指して、現在、内灘町人口ビジョン及び総合戦略の策定を進めている。定住促進や子育て支援施策は最重要課題ととらえ、次年度は、より実効性のある施策を検討する。

学童保育クラブ

問 新たな子育て支援策として、多子世帯やひとり親家庭の学童保育クラブの保育料を軽減する減免制度が必要と思われるが、町の考えは。

答 多子世帯の利用者はいないが、ひとり親世帯は39世帯で46名の児童が在席している。ひとり親世帯の減免措置は、県のひとり親家庭放課後児童クラブ利用支援事業費補助金を活用し、減免を検討したい。

地方創生

問 町の平成27年度地方創生事業の推進にあたり、「元気づちなど創生推進本部会議」での取り組み状況は。

答 これまで2月以降、3回の会議を開き、「雇用の創出・定住促進・子育て環境の充実・安心な暮らし」の4本柱を重点項目として、町の人口ビジョン及び総合戦略の策定を検討した。9月会議に人口ビジョン、総合戦略の素案を示し、議会の意見を踏まえ、策定を進めていく。



友達の手ーッ！（清湖学童保育クラブ）

第5次総合計画

問 平成28年3月策定予定の第5次内灘町総合計画の進捗よく状況は。

答 総合計画の検証及び第5次総合計画の基本構想の検討を進めている。地方創生の総合戦略策定にあわせて本年度中の策定を目指す。

総務産業建設常任委員会

問 北陸農政局の職員が役場に向いているこの機会に、河北潟の水質浄化対策を進めよ。

答 揚水機改修工事に関連し、要請していく。

問 内灘町霊園合葬墓の駐車場に高齢者用の駐車スペースを設けてはどうか。

答 関係課と協議し検討する。

問 合葬墓が一杯になったら増設するの。

答 社会情勢に応じて、増設を検討する。

問 都市計画マスタープラン(案)の住民説明会では参加者が少なかった。住民への周知は十分行なわれたのか。

答 今後、より多くの視点から工夫を加え周知に努めていきたい。



よみがえれ河北潟

問 住民説明会へは職員が部署の垣根を越えて出席すべきではなかったか。

答 説明会には町民の皆さんから様々な質問が出されたが、今回は都市計画にかかる質問を想定していた。

文教福祉常任委員会

問 新年度、教科書採択の結果はどのようなものだったか。

答 河北郡市3市町の採択協議会で決め、結果は従来と同じ教科書を採択した。

問 学力テストの公表にかかる町の考え方を示せ。

答 これは、競争意識をつけるのではなく、課題を見つけ、今後の教育実践に生かすためのものがあり、町としてはテストの公表はしない。

問 小学校のグラウンドの芝生化では、今後清湖小学校に続く各小学校での取り組みを示せ。

答 維持管理や芝刈り機の購入、地域の人たちが世話できないかなどの課題はあるが、要望が強ければやっていきたい。

問 内灘町子ども・子育て会議設置条例の制定とは、具体的にどのようなものか。

答 内灘町次世代育成支援地域行動計画に基づく引き続きの計画であり、新たに考えられる保育所にかかる計画の評価機関を設定するための条例制定である。



わずか3カ月で緑のじゅうたん

追跡

ありゃ～
どうなったがいね～

「ほのぼの湯」 町の考えをきく。

これからの福祉センターの手法について、
ランドデザインを示せ。

平成 25 年 9 月 議会 中川 達 議員

答 弁

現在の場所での建て替えを検討

総合公園の全体を地区計画で見直しを
かけ、内灘町の一等地である現在地で総合的な
ものを考えたい。

その後

平成 27 年 4 月 温浴施設整備構想決まる。

整備構想に基づき、基本設計を進めています。



農漁業の 活性化に取り組み。

地元農産物や水産物を重宝し、農水産物の
ブランド化や経営の幅を広げ、雇用を生み出
す農漁業の活性化に取り組み。

平成 26 年 3 月 議会 生田 勇人 議員

答 弁

商工会と緊密な連携を

町の喫緊の課題であると認識し、補助金の
創設など積極的に支援をする。

その後

元気内灘とれたて市 平成 26 年 5 月より開催

補助金を利用し、地元漁家や農家による青
空市場を開催しています。





議会を傍聴しませんか

次の定例会議の開催は12月です。詳しくは、町ホームページをご覧ください。

議場の受付は当日、庁舎3階のエレベーター横で行なっています。

議会事務局 TEL286-6715

委員長	藤井 良信
副委員長	磯貝 幸博
委員	米田 一香
委員	七田 満男
委員	北川 悦子

広報対策特別委員会

議会広報でもこれまでに、安全・安心な町づくりの啓発に取り組んで参ります。

〔米田 一香〕

街かどインタビュー

「自分の足が一番大事」

今回紹介する方は向粟崎にお住まいの上端花子さん(90歳)です。



◆内灘に住んで何年になりますか。

○70年です。内灘に生まれ、結婚して20年間金沢に住み、内灘に家を建てたので戻ってきました。

◆思い出に残る町の風景や魅力をひとこと。

○子供の頃は家の前に砂浜や松山があり、秋にはムラサキシメジ等をとり、松葉は燃料にしていました。昔はくさらないゴミ(プラスチック)がなく、砂浜はとてもきれいでしたよ。栗崎遊園の幽霊の芝居は今でも覚えてい

◆戦後70年。戦事中が青春時代になりますね。印象に残っていることは。

○富山空襲ですね。流れ星のように焼夷弾が落ちて

◆元気に長生きする秘訣を教えてください。

○自分の足が一番大事。30分は毎日歩いています。近所の人と仲良く話ができることに感謝しています。

◆議会傍聴をしたことはありますか。

○昔は傍聴によく行きましたが、今は耳が聞こえにくく行かなくなりました。

◆貴重なお話をありがとうございました。いつもでもお元気で。

インタビュー 北川 悦子



編集後記

近年の日本を取り巻く世界情勢の変化、大規模な自然災害の発生、予測できない危機的な状況が頻発しています。

今年は内灘町が会場となった石川県防災総合訓練中にも、実際の地震が発生。幸いにも、大きな地震ではなくほっとしました。

今日も生かされていることに感謝しつつ、明日はわが身と万が一に備えたいですね。